

博士学位論文審査要旨

2013年1月25日

論文題目： 18世紀後半におけるイギリス奴隷貿易の支払手段およびその重要性

学位申請者： 長澤 勢理香

審査委員：

主査： 経済学研究科 教授 布留川 正博

副査： 経済学研究科 教授 川越 修

副査： 経済学研究科 教授 鹿野 嘉昭

要 旨：

本論文は、18世紀後半におけるイギリス最大の奴隷貿易港リヴァプールの奴隷商人の取引形態、とくにそこで使用された手形の振出および引受業務の実態について分析したものである。

第1章では、イギリスの奴隷貿易港の中心がロンドン、ブリストル、リヴァプールと順に移っていった経緯を説明し、18世紀半ばにリヴァプールが台頭してきた要因を分析している。また、ウィリアムズ・テーゼに関する議論や奴隷貿易利潤論争を先行研究に基づいて整理し、奴隷貿易において為替手形を使用することがその貿易発展のひとつの大きな要因になったのではないかと指摘されている。

第2章では、イギリス、アフリカ、西インドを含むいわゆる三角貿易が18世紀半ばまでに奴隷貿易と砂糖貿易(西インド貿易)に分離し、奴隷貿易船の船長が西インドで奴隷を売却した際、為替手形を受け取り、バラストを積んで本国に帰還したことが指摘されている。

第3章では、西インドにおける手形振出人である奴隷ファクターの活動形態が明らかにされる。まず、先行研究によって3人のジャマイカ在住の奴隷ファクターの活動内容が整理されている。また、リヴァプール在住の有力な奴隷商人ウィリアム・ダヴェンポートに宛てられた奴隷ファクターや奴隷船船長からの手紙を分析し、西インドの奴隷市場の様子やイギリス・アフリカ・西インド間の情報のやり取りが明らかにされている。

第4章では、西インドの奴隷ファクターが振り出した手形の本国側の引受人についての分析を行っている。従来ロンドンのコミッションエージェントがもっぱらその手形を引き受けてきたとされてきたが、ダヴェンポート・ペーパーの詳細な分析の結果、手形引受人は彼らだけではなく、リヴァプールの奴隷商人もその引受業務に携わっていたことが明らかにされている。

奴隷貿易における手形振出・引受の研究はこれまでほとんどなく、本論文はその研究空白を埋めるという意味で重要な研究成果であるといえる。ただし、ウィリアムズ・テーゼのなかで重要なリヴァプールとマンチェスターとの関係や最終的な手形決済の分析までは踏み込んでいない。今後の課題として残される。

以上により、本論文は、博士(経済学)(同志社大学)の学位を授与するにふさわしいものであると認められる。

総合試験結果の要旨

2013年1月25日

論文題目： 18世紀後半におけるイギリス奴隷貿易の支払手段およびその重要性

学位申請者： 長澤 勢理香

審査委員：

主査： 経済学研究科 教授 布留川 正博

副査： 経済学研究科 教授 川越 修

副査： 経済学研究科 教授 鹿野 嘉昭

要 旨：

本論文提出者は、2013年1月16日午後3時から約1時間30分にわたって行われた試問会において、提出された論文に関する研究の概要、その意義と学術的貢献について説得力ある説明を行うとともに、審査委員との質疑・討論を通じて当該分野に関する高い学識と幅広い研究能力を有していることを証明した。

また、外国語能力に関して、英語について十分な学力を有していることが認められた。

よって、総合試験は合格であると認める。

博士學位論文要旨

論文題目： 18世紀後半におけるイギリス奴隷貿易の支払手段およびその重要性
氏名： 長澤 勢理香

要旨：

18世紀後半のイギリス奴隷貿易の繁栄に関して、これまでにさまざまな研究がなされてきた。とりわけその中心地でもあったリヴァプールに関しては、多くの研究者が関心を寄せてきた。とくにウィリアムズ (Eric Williams) による研究は奴隷貿易とイギリス経済の関連性を強調し、現在にいたるまで決定的な実証は行われていない。

この研究を発端に繰り広げられてきたイギリス経済に対する奴隷貿易の寄与度を考えるにあたって、とくに近年では多角的かつ広範な視野に立った研究が求められている。すなわち、奴隷貿易単体ではなく関連する貿易や産業、そして大西洋圏を結ぶ商業ネットワークを前提とした議論の重要性が指摘されている。これは、奴隷貿易の経済効果を考える際、その利潤単体を考慮するだけでは不十分であり、植民地貿易や関連産業の波及効果すべてを含めて検討しなければならないという視点に立っている。

モーガン (Kenneth Morgan) はリヴァプール奴隷貿易の優位性を経済、地理、商人の才覚などの条件に負うところが大きかったと主張した。とくにリヴァプールの奴隷商人はいち早く奴隷貿易に為替手形による支払手段を取り入れたことで知られ、この方法がリヴァプール奴隷貿易の発展を促したとモーガンは述べている。

しかし現在までのところ、モーガンが主張したような為替手形の使用と奴隷貿易の発展を関連付ける後続の研究はみられない。為替手形による支払いの導入は奴隷貿易を促進させ、なおかつ手形振出人である奴隷ファクターおよび本国の引受人に新たな収益機会を提供した。為替手形による支払いが奴隷貿易において定着するためには、それらが受け入れられる土壌が整っていたことが前提となる。この意味で奴隷貿易だけではなく、奴隷貿易から分離した砂糖貿易やそれに伴う支払手段の発展に関する研究の必要性も増すと考えられる。

そこで、本研究ではイギリス奴隷貿易の繁栄期である18世紀後半の支払手段、すなわち為替手形とそれを支えた手形振出人および引受人に着目し、その重要性を浮き彫りにすることを試みた。言い換えれば、彼らの提供するサービスによって奴隷貿易は合理的な支払手段を獲得し、強いては貿易の発展を促したことを明らかにする。

奴隷貿易の支払手段は18世紀中ごろを目処に、徐々に植民地物産そのものから本国宛の為替手形で受け取るようになっていった。それには砂糖専用船による砂糖貿易が拡大し、奴隷船による砂糖輸送が難しくなった結果、三角貿易が奴隷貿易と植民地貿易に分離していったことが背景にあった。その結果、奴隷商人は砂糖や他の植民地物産を輸入する機会を減少させることになった。また同時に、さまざまなリスクに直面していた奴隷商人にとって、これはより安全かつ確実に奴隷の売上代金を回収できる方法でもあった。

この為替手形の信用リスクを取ることで手数料を得たのが、奴隷販売の代理人として手形を振り出した奴隷ファクターと、イギリス本国のコミッションエージェントをはじめとする手形引受人であった。彼らは自己勘定で直接奴隷貿易に参入するのではなく、リスクを負担することで奴隷貿易を金融サービス面から支えたのである。

彼らが奴隷貿易の発展に果たした役割を明らかにするために、本研究では18世紀後半のリヴァプール奴隷商社であるダヴェンポート商会 (William Davenport & Co.) の史料を用いた。ダヴェンポートペーパーと一般的に呼ばれるこの史料は新旧ふたつの文書からなっており、それぞ

れマイクロフィルム化、電子化されている。古い方の文書は手紙や勘定書、そして同商会の受取手形の記録などから、また新しく発見された方の文書には手紙、勘定書、賃金に関する文書、資産に関する文書などから成っている。このうち新ダヴェンポートペーパーに収められている、奴隷船の船長および奴隷ファクターが奴隷商人ダヴェンポートに宛てた手紙から、英領西インド諸島における手形振出人としての奴隷ファクターの重要性を浮き彫りにした。また、手形引受人については、旧ダヴェンポートペーパーに収められている手形記録をもとに、奴隷貿易ではどのような人物が手形引受人となったのかを明らかにした。

西インド諸島の奴隷ファクターの業務は、奴隷販売会の催行やそれにかかわる告知、奴隷代金の手形振出、勘定書の作成、船舶の売却など多岐にわたっていた。そのなかでも最新の奴隷価格動向や需要が見込める奴隷の出身地など、西インド諸島の現地情報を提供することで奴隷貿易を支えてきた。これらの業務には高い信頼性が求められていた。その一方で奴隷商人は奴隷ファクターのサービスを利用することで、代金の回収を安全かつ確実なものにしようとした。また、植民地貿易専用船に取って代わられつつあった植民地物産入手の機会も多少得ることができたのである。

奴隷の売上代金としての為替手形を本国で引き受け、支払ったのは主にコミッションエージェント、すなわち西インド商人であった。彼らはロンドンやブリストルをはじめとする都市で砂糖の委託輸入を行っていた。このことに関する研究蓄積はこれまでにいくらかみられ、奴隷貿易に対するロンドンとリヴァプールの分業化を示唆するものであった。

ところが、18世紀後半のリヴァプール奴隷商人の受取手形記録の内容を注意深く分析した結果、そのなかにはロンドンやブリストルのコミッションエージェントによる引受けのほか、リヴァプールの奴隷商人による引受けも多数みられた。奴隷手形の一枚当たりの引受金額ではロンドンのコミッションエージェントを中心とする金融業従事者によるものが圧倒的に多くみられたが、引受回数ではリヴァプールの奴隷商人も顕著に引受けを行っていたのである。また、奴隷手形の引受人をロンドンおよびリヴァプールの都市別にみた場合、ロンドンの引受人にはコミッションエージェントのほか金融業従事者、下院議員、特定の民族的出自を持つ者が多くみられる結果となった。奴隷貿易の支払いに用いられた奴隷手形がリヴァプールの奴隷商人たち自身によって引き受けられたという事実は、奴隷貿易への直接的な投資のほかにも、彼らが金融の側面からも奴隷貿易の発展に寄与していたことを表している。

このように、奴隷ファクターによる安全性の高い手形振出および信頼性の高い奴隷販売、また西インド商人や奴隷商人たちによる手形引受と確実な支払いは、奴隷貿易における為替手形の使用拡大の前提条件となった。そしてこのことが、イギリスの大西洋奴隷貿易の発展を促したのである。